

番組審議会

第14回BSよしもと番組審議会

■開催年月日： 2025年4月21日（月）

■開催場所： BSよしもと株式会社会議室

■出席した委員（敬称略）7名中6名出席＊あいいうえお順

大原鶴美 （プロフェッショナルコミュニケーションスキルマスター・トレーナー）

川上和久 （麗澤大学教授）

久保博 （一般財団法人日本スポーツ推進機構（NSPO）理事）

品田英明 （元味の素AGF株式会社代表取締役社長）

竹中ナミ （ナミねえ）（社会福祉法人プロップ・ステーション理事長）＊リモート参加

山田奈美香（山田・尾崎法律事務所弁護士）＊リモート参加

■議題

1. 開会の辞 （審議委員長）
2. 開会の挨拶 （稲垣社長）
3. 編成関連の報告（4月改編他編成動向、ジャンル種別・比率報告）
4. 視聴者からの反応の共有（コールセンターレポートより）
5. 番組審議
対象番組：「ななまがりのパラレルバラエティ#2」3月23日（日）放送分
6. 閉会の挨拶 （泉取締役）
7. 閉会の辞 （審議委員長）
8. 事務局からの連絡

川上審議委員長による開会の辞に続き、社長稲垣より「BS放送事業の業界動向の報告、4月13日に開幕した大阪・関西万博についての取り組み」についての報告を兼ねた挨拶に続き審議会をスタートした。

■審議の経過の概要等

1. 編成関連の報告
○金田専務取締役兼編成制作局長より、4月改編等の編成動向について、以下のポイントについて説明を行い、理解された。

① 番組終了と新番組への移行

開局以来3年間タイムテーブルを支えてきた「亜生とナダルがゆる〜く釣り旅やっちゃってる」「ジュニア、伺う」「レギュラーの全国あるある探検隊」「空気階段の●山」の4番組をマネタイズの観点から終了し、新番組を準備中である。

② 大阪・関西万博への取り組みを強化

地方創生を謳って開局したBSよしもととして、吉本興業がパビリオンを出展していることもあり、開幕前の特番の放送に加え、平日月曜日から木曜日に放送中の生放送番組「発信Live ジモトノチカラ!」の中で、各パビリオンやショップの見所を連日紹介している。また、特別番組についても計画中である。

③ TVerでの配信開始について

3月29日から新たに配信をスタートした。単発番組の『営業-1グランプリ2024 総決算スペシャル』及びレギュラー番組の『東野山里のインプット』『水田信二の注文の多い料理教室』の3番組で、好調な視聴数で推移しており、今後はより一層の周知拡大や二次利用収入の増加を目指したい。

○続いて、編成運行責任者より、昨年10月から本年3月までのジャンル種別・比率について、放送実績データを基に報告を行い、CM放送時間総量の設定基準が基準内に保たれていることを含め説明し、全審議委員に確認された。

2. 視聴者からの反応の共有（コールセンターレポートより）

考査部より、1月～3月中にコールセンターに寄せられた視聴者からの意見についてのサマリーを報告し、全審議委員に確認された。

3. 番組審議

対象番組：「ななまがりのパラレルバラエティ#2」3月23日（日）放送分

初めに、番組チーフ・プロデューサーから番組概要についての説明を行い、続いて審議委員長による進行の形で審議を行い、各審議委員から寄せられた質問については番組チーフ・プロデューサーが応答する形式で番組審議を行った。

① 各審議委員からは、以下のような意見が寄せられた。

- ・番組そのものは大変面白く、地上波の番組にも引けをとらない内容で『ななまがり』の独特の世界観を堪能できた。一方で、すでに一定程度売れている芸人の芸風にフィーチャーする番組は、BSよしもとを大勢の視聴者に知ってもらうという段階

では望ましいものの、その次の段階に行く際には、吉本や芸人個人のYouTube、テレビ放送、サブスクリプションのコンテンツとどのように住み分けを行っていくかが今後の課題になるのではないかな。

- ・ 親近者の葬儀を想起させ、笑って楽しむことができない内容であった。

- ・ パロディCMの部分はわかりやすく面白かった。

- ・ 個性の強い作風のため、好き嫌いが分かれ、特定の層に支持される番組であると想像されるが、個人的な好みとしては、表現に不快感を覚える部分もあり楽しむことができなかった。個人的な感想としては、出演者の恰好やネーミングがテレビでの放送にふさわしいかどうか、またBSよしもとの放送基準*の下記の項目に抵触していないか、BSよしもと本来が目指す地方創生という観点からも検証が必要なのではないかと感じた。

*参考「BSよしもと放送基準」（一部抜粋）より

6) 表現

(ア) 下品な言葉使いはできるだけ避け、また、卑猥な言葉や動作による表現はしない。

(ウ) 著しい不快感や嫌悪感を与えるような表現や内容は避けるようにする。

- ・ 一部のコア・ファンに限定した視聴者をターゲットにした番組を放送するという実験的な番組編成を試みたことに対し、好意的な解釈もできる。

一方で、このような特色の濃い番組に対して、将来的にどのようなスポンサーを集めていく戦略なのか、マーケティングの方向性についても疑問が残った。

- ・ 番組内で展開するリアクション等の内容は、制作サイドが事前に作り上げたものなのか、その場で芸人が作ったものなのかという疑問を覚えた。

上記の番組についての意見と質問に対し、番組のチーフ・プロデューサーから以下のように説明を行い、理解された。

- ・ 本番組は、前作に続く第2弾の企画であるところ、第2弾の番組制作にあたり、前作を踏まえて複数回打ち合わせを重ね、大枠ではシナリオを用意しつつ、芸人としての底力を発揮する実力を持った芸人をキャスティングし、長尺の番組制作にチャレンジした。

視聴者に対して、下品、不快感を覚えない程度を保つこと、人を傷つけないような配慮もコンプライアンスの観点から充分意識し、反映したものの、全視聴者層を

取り込むという努力が不足していたことを認識し、更に改善の余地があると感じ、次回以降は善処していきたい。

また、編成方針と放送基準への抵触の有無について、金田専務取締役兼編成制作局長より下記の通り補足説明を行った。

BSよしもとは総合編成を行う局であるため、地方創生を扱う番組やコーナーを保持しつつ、年配の視聴者には好まれない可能性のある内容であることは理解しながらも、若い視聴者を取り込むような番組の編成も行い、全体のバランスを考えて編成を行っている。

また、地上波では冠で流せないような中堅芸人にフォーカスし、次の人気実力派芸人の誕生への期待も込めて放送を行った。

放送基準に関しては、出演者の芸風を踏まえ、基準から外れたレベルとまでは言えないことを検証し、局内での議論も行い、視聴者からの抗議が無いことも確認できている。放送基準については、時流や視聴者層に応じて、その時々で変化していくものの、時勢に応じた敏感な対応を心掛けている。今回の審議会で、このような特徴ある芸風を好まない視聴者も存在するというのを改めて認識したため、今後は一層慎重に配慮していきたいと思う。

4. 閉会の挨拶

最後に事務局より次回開催時期を確認後、泉取締役より閉会の辞として、以下のコメントを述べた後、審議委員長は閉会の辞をもって審議会を閉会した。

昔、全く無名だった芸人をなんとかテレビで露出できるように育んだという経験から、BSよしもとは本当に面白いと考える素材を世に送り出すという役割を担うことも必要であると捉えている。今回の番組は編成時にかなり議論を行ったと認識しているが、本日いただいたご意見を持ち帰り、今後は、テレビ放送と配信するものとのすみ分けも含め、より良い放送局となることを目指していけたら良いと思う。

なお、メインとなる地方創生については、放送時間は少なくなるものの、「うた自慢まち自慢」など、大阪・関西万博の期間中も継続していく予定である。

■現在のBSよしもと審議会委員（敬称略）

※2025年4月現在

川上和久	（委員長／麗澤大学教授）
大原鶴美	（副委員長／プロフェッショナルコミュニケーションスキルマスター・トレーナー）
久保博	（一般財団法人日本スポーツ推進機構（NSPO）理事）
品田英明	（元味の素AGF株式会社代表取締役社長）
清水義次	（建築・都市・地域再生プロデューサー/株式会社アフタヌーンソー エティ代表取締役）
竹中ナミ（ナミねえ）	（社会福祉法人プロップ・ステーション理事長）
山田奈美香	（山田・尾崎法律事務所弁護士）

以上